



マクロ経済学A

第1回 マクロ経済学とは



① ガイダンス



講義概要と到達目標

講義概要

マクロ経済学とは国、あるいは地域全体の経済の動きを勉強する学問です。マクロ経済学をきちんと身につけることにより、日本経済や地域の経済、世界の経済を俯瞰的に考える一つの基準を身につけることができるようになります。この講義では標準的なマクロ経済学の理論を理解し、理論を現実に応用する応用力を身につけることを目的とします。

講義の到達目標

- GDPなどマクロ経済学の基本的な用語やメカニズムを理解できる。
- マクロ経済学の理論を理解できる。
- 現実の経済問題についてマクロ経済学の考え方をを使って考察できる。



講義計画

1～2回 マクロ経済学の概要

3～4回 GDP

5～9回 財市場

 **中間テスト**

10～11回 貨幣市場

12～14回 IS-LM分析



成績評価

教科書

なし

参考書

- 福田慎一・照山博司『マクロ経済学・入門（第5 版）』、有斐閣アルマ、2016 年
- 竹内信仁・柳原光芳『スタンダードマクロ経済学』、中央経済社、2013 年
- 平口良司・稲葉大『マクロ経済学（第3 版）』、有斐閣、2023 年
- 二神孝一『マクロ経済学入門（第3 版）』、日本評論社、2017 年

成績評価

- 小テスト40%、 中間テスト30%、 期末レポート30%



この授業の内容

- ① ガイダンス
- ② マクロ経済学とは何か
- ③ マクロ経済学の登場人物



② マクロ経済学とは何か



ミクロ経済学とマクロ経済学

経済学

- 経済の仕組みや経済活動が社会に与える影響を考察する学問

ミクロ経済学

- 個々の商品の取引や個々の消費者、企業の経済活動を分析

マクロ経済学

- 国や地域全体の経済を分析



財・サービス

経済学で取引する商品

財：形のある商品

- 例) りんご、おむすび、車など

サービス：形のない商品

- 例) 散髪、電話、電車・バスなど

中間財：別の財・サービスを作る際の材料・部品となる財

最終財：直接使用・消費するために作られる財

付加価値：ある財の生産額からその生産に必要なとなった中間財にかかる費用を引いたもの



③ マクロ経済学の登場人物



登場人物①：企業

企業

財・サービスを生産・販売する組織

- ▶ 生産要素：財・サービスの生産に必要なもの（労働や資本など）
 - ▶ 資本：工場や機械など生産に必要な設備
 - ▶ 労働：人々が働いて生産活動に貢献すること
- ▶ 技術：設備の性能や職人の技能など

企業の目的

生産要素の量を選択し、できるだけ多くの利潤を稼ぐこと

- ▶ 利潤：売上から費用を除いたもの



登場人物①：企業

投資

資本を増やす行為

- 設備投資、住宅投資、在庫投資の総称

金融機関

お金を借りたい経済主体とお金を貸したい経済主体との間の
お金の融通の仲立ちなどの金融サービスを提供する企業

- 銀行：金融機関の代表的な企業
 - 個人や企業からお金を預かり（預金）、個人や企業にお金を貸す（融資）

株式会社

株式を発行・販売し資金を集める企業



登場人物②：家計

家計

生計を同じくする家族、または単身者のこと

- 所得：家計が稼ぐお金
- 可処分所得：所得から税や保険料支払いを除いたもの
- 消費：家計が財・サービスを購入し食べたり使ったりする行為やその金額
- 貯蓄：可処分所得から消費を除いたもの
- 金融資産：家計のお金に関する資産

項目	金額
所得	620,012円
税金・保険料など	117,750円
可処分所得	502,262円
消費支出	322,841円

出所)総務省統計局「家計調査(2022年)」



登場人物③：政府・中央銀行

➤ 政府

- 国家の統治を行う組織の総称
- 公共サービスを家計や企業に提供
 - 政府支出：政府が業務遂行のためにお金を使うこと
- 家計や企業から税を徴収

➤ 中央銀行

- 銀行の口座管理を行う国で唯一紙幣発行が行える銀行
- 物価の安定を図ることが主な使命



この授業で学んだこと

マクロ経済学とは何か

ミクロ経済学とマクロ経済学の違い

マクロ経済学の登場人物

企業、家計、政府・中央銀行の目的と役割

経済用語